リレー連載生ヒストリー温故知新
第8回宮島光男さん（55期）その2

【１】同窓会での役職（敬称略）

▼幹事長　1999年6月～2002年7月　　会長　丸山瑛一（51期）　副会長　村田寛、堀内忠久、黒岩千鶴子　会計長　関 五郎　会報編集　長井上 剛

▼副会長　2002年7月～2005年7月　　会長　石井光春（54期）　幹事長　成田邦夫（56期）

【２】印象に残っている出来事

{幹事長時代}

①母校発足100周年に向けて、関東としての取り組み

（イ）母校職員室へのパソコン寄贈活動 → 本部もその後同調し、すべての職員室へのパソコン提供、「システム化」への第一歩となった。

（ロ）関東同窓会名簿のCD化前期執行部の堀内幹事長が約6000人の同窓生をパソコンに取り込んだ偉大な実績を受けて、これをCD化し約500枚を会員に配布

（ハ）堀内副会長が中心になって100周年記念絵画展を本部に提起し、実施

②会報の充実

会報を16ページ建てとし、井上編集長とともに「座談会」を連載化、また会員の近況報告を幹事長の小生が記事化して掲載するなど内容を充実しました。

会報の記事は副会長時代まで、ほぼ２人で編集を続けました。

{副会長時代}

① 石井会長に変わり､会員の参加に向けた様々な取り組みを始めました(大衆化)。その最たるものがゴルフ大会で、小生が初代事務局長になり、第1回大会を2003年12月17日に茨城県のサミットゴルフクラブで開催。第5回まで事務局長として務め、第2代を上原昇さん（65期）にリレーしました。

② 成田幹事長と協議して、コスタリカ大使館に勤務していた94期の女性会員が連れてきたフォルクローレのバンドに銀座のライブハウスで演奏してもらったこと。銀座のライブハウスは小生がたまに通っていたジャズライブの店で、土曜日には一般からのライブも貸し切りで貸してくれるということで交渉して決め、当夜は80人ほど参加して大変盛り上がりました。

【３】一番苦労したこと

{幹事長時代}

①名簿修正作業

会報を出すたびに200～300人分が住所不明で戻ってきます。この修正作業が大変です。同期の幹事、故郷の実家などまで連絡して修正します。

②事務所の開設に向けた作業

長年続けてきた「基金」が1,000万円に達したのを機に、同窓会として事務所を持つべきとの声が出て、裁判所から定期的に出る不動産の情報を中心に、1, 2の副幹事長と都内のいくつかの場所を探して歩きました。それまで会の事務所は神田の村田寛事務所に仮置きされていて、郵便振り込みの住所もそこに指定され、毎月村田事務所に通っていました。

しかし裁判所から出る不動産情報はほとんどが不良なもので、小生の幹事長時代には断念せざるを得ませんでした。

{副会長時代}

副会長時代に石井会長から「本部幹事会に関東から代表を参加させるべき」と指令が出て、本部と協議しましたが、本部側は「各支部」の扱いとして受け入れず、やむなく55期代表幹事という名目で出る形をとりました。しかしこの対応は故郷にいる同期のなかから「首都圏の同期が出るのはおかしい」という声もあり、調整に苦労しました。

【４】同窓会への想い

同窓会の活動に関わったお陰で、その後、松尾倶楽部や東京上田会の活動にも参加することができるようになりました。多くの先輩後輩に知己を得たことでこの高齢化時代でもそれなりに充実した生活を送ることができました。地域の活動にはあまり関与できませんでしたが、ふるさと上田との縁も深まり、故郷の歴史をはじめ様々なことを知ることができました。同じ古城の門をくぐって来た仲間として、今、孤独化しつつあるこの時代に、同窓会の活動が少しでも広がってくれることを願っています。

【追記】長い同窓会活動の中で、甕会長時代の堀内忠久幹事長の果たした偉大な役割を忘れてはなりません。2年前に故人になられてしまい大変残念ですが、彼が同窓生の個人情報を約6000人分までパソコンに取り入れ、それ以前の手書き方式を一挙に変えてくれたのです。この情報システムを作成したのが、66 期清水通男さんの（株）システム技研さんです。

この個人情報を井上編集長が関係していた日暮里の印刷会社に渡して、宛名、封入、郵送作業まで一貫してできるようになりました。100周年記念の関東会員の名簿CD化もお陰で大変スムーズに作業できることになったのです。現在は個人情報の取り扱いが厳しくなり、いろいろ問題があるかとも思いますが、幹事長業務としては楽になったのは事実です。